東亜大学　総合人間・文化学部　教員談話会要旨

「社会心理学」への招待

西　村　太　志（心理学研究室）

これまで東亜大学総合人間・文化学部では、社会心理学をメインで教える方はおられませんでした。そこで、今回の談話会では、主に社会心理学という学問分野が研究対象としている背景についての概略を説明しました。特にいくつかの重要な研究については、若干詳細に説明を行いました。それらは、他者との同調行動や規範意識が生起するメカニズム、恋愛関係に代表される親密な対人関係における好意と葛藤、集団運営における効果的なリーダーシップ・スタイルなどです。これらを通して、我々にとって社会心理学が身近な学問であることを紹介しました。

その後、これまで私が行ってきた自己と他者にまつわる社会心理学的研究を紹介しました。具体的には、自尊心の低い人が取りやすい対人行動についての説明です。なぜ自尊心が低い人が、不適切な対人行動を取ってしまうのか、またその結果、自身の心理的適応感にどのようなネガティブな影響が生じるのかについて、いくつかの実証データを示しながら説明を行いました。とりわけ、低自尊心者は、自身にとって正確な情報を過度に希求するのだけれども、それを適切に処理できずに、結果として自分のことを情緒的な側面でしか支援してくれない他者との相互作用を強く志向し、このことが状況の持つ特質とは適合しない他者との相互作用を促すことを示しました。

最後に、社会心理学分野の学際的色彩と、今後の発展の可能性や他研究分野との協同の可能性について言及しました。

（平成15年5月29日開催）

スポーツ指導の効果的実践

石　井　信　輝（スポーツ学研究室）

従来からスポーツの指導は指導者の経験的な側面から得られた知見を中心にして実践されてきた。しかしながら、経験的な側面のみに頼った指導実践には限界があり、より効果的にスポーツ指導を実践するためには、スポーツ科学に関連する諸科学の知見に立脚する必要がある。国際比較研究という手法もスポーツ科学に関連する諸科学のうちの一つであり、実際この手法を用いた研究によって、効果的なスポーツ指導の実践に向けてかなりの成果があげられてきた。そのためこれまでの研究においては、ラグビー競技を中心としたスポーツ指導体系（プレイヤーの育成方法・制度、指導者の養成等）および、プレイヤーの特徴を認知的な観点を中心とし、国際比較という手法を用いて検討し、効果的なスポーツ指導の実践に寄与することを目的としてきた。

ところで、国際比較を進めていく上で中心とした国はフランスである。何故ならば、フランスは柔道をはじめスポーツの国際競技力が近年特に充実してきていることに加え、スポーツ活動の充実を図るための各制度・法が整備されているため、新しい知見の獲得が期待されたためである。